

## 越後荒沢岳 北ノ又川蛇子沢中俣～荒沢岳

木下

【日時】 2006年9月2日(土)～3日(日)

【メンバー】 L棚橋 矢野 木下

スキーで登った蛇子沢中俣、あの大滝はどうなっているのだろうか。今回は寸断された雪溪に阻まれて合間見ることができなかったが、集中にかける棚橋リーダーの想いと若い矢野さんの突破力に引っ張られて一番乗りでピークに到着したのです。



### 9/2 晴

北ノ又・岩魚沢に向かう石井さんに蛇子沢橋で車を降ろしてもらい、出発。アプローチはゼロである。水量は少なく、のどかなゴーロを行くと魚留滝5mとなる。小さく巻けそうであったが悪そうに思え、少し戻って大きく巻く。台地上まで巻き上げられ30m懸垂で沢に戻る。小さな淵をへつったりして進むと開けた小河原になり、兩岸が立った圧迫感から開放され、のんびりとする。

大きな雪塊を横目で見て小滝を快適に越していくと10mの斜滝、左から矢野さんが空身でリード、荷揚げして登る。いよいよ下流部の核心部4段40m滝が現われる。1段目は左のリッジから容易そうだが、2段目が厳しそう。左岸から巻いて2段目落ち口にトラバースする



ルートを取る。ガレ沢から登り始めるが上部ほど良くない、先が見えないので木下がザイルをつけてトラバースすると容易に2段目落ち口に出た。上2段は快適に登れる。核心部を無事すぎたかと思ったが、テクニカルな滝が続く。3m滝は左からアンダーホールドを使ってへつって登るが、木下が登った時にホールドした30cmほどの岩が抜けてびっくり、確保してもらって助かった。

続く6mは右のリングボルトを使ってA1で登る。次の2条3m滝は左から巻けそうであるが、果敢に矢野さんが突っ込む。釜に入っているだけで胴振るえがくる冷たい雪解水を頭から被ってのシャワークライミング。見事登り

きるが後続はシャワークライミングする気になれず、左の垂壁を人工（自己脱出）で登る。ここを登ると広河原、暖かい日差しに思わずのんびりとしてしまう。

右俣に入るとしばらくはゴーロ状でのどかな感じだ。崩れた雪渓を左岸に見ながら進むと5mほどの滝が3本続く、どれも快適に登れる。沢が左折するといよいよ大きな雪渓が現われ、スパイクを履き、右岸より取り付く。安定しているのでこのまま中俣の出合にいけると思っていたが、途中、両岸が大きく寸断され中央部だけがかろうじて繋がっているところにあたり通過不能。その中央部も今にも崩れそうだ。



3人で四方を観察してルートを考える、①雪渓を潜る・・・左岸より雪渓の下を覗き込むが15mほどの高さがありゴルジュが深く側壁も立っているので雪渓の上に出る難しい。②左岸の急な草付+ブッシュを2pほど高巻き、懸垂・・・両岸が立っているのでその先の雪渓が寸断されると行き止まり、戻れなくなるかも。③左岸に上がり草付スラブをトラバース、状況を見て懸垂・・・左岸側の雪渓のほうが大きく切れているので、大分戻らなければならずトラバースは何pかかるのだろうか ④右岸より直上して中嵯尾根に出て中俣大滝の上まで巻く・・・大高巻きコース。

結局安全を期して④案になるが中俣の状況が悪ければ藪ビバークになるだろう。戻ることも進言したが、二人の「集中」への意志は固く、多分へろへろになるだろな、と想像しながら巻きに入る。傾斜がゆるく見えた取り付けも結構急で、1p矢野さんがロープを伸ばす。以降傾斜が次第に落ちて中嵯尾根に出る。尾根は檜の大木があり、獣道に導かれ楽勝かな、と思ったがやはり甘くなかった。そのうちに石楠花や灌木に足を取られ、思わず泣きが入る。知らぬ間にスパイクの片方がなくなっていた。中嵯の手前で中俣を見下ろせる、雪渓は見え、沢に戻れそうだ。灌木伝いに下降するが、そのままだと滝



の落ち口に出るので1pトラバースすると小沢にあたり懸垂なしで戻ることができ「ホッ」。約3時間の高巻きであった。すぐにビバークに良い場所が見つかり長い1日を終了。雪渓からの冷気が寒く、焚火もそこそこにツェルトに入る。

9/3 小雨のち晴

天気予報は晴を告げているが、重たい雲と時折ガスのかかる天気だ。雪渓の状態が悪い

と高巻きに時間がかかりそうなので4時起床だ。雪塊を左岸に見てゴーロの沢を行くと5mほどの滝が続くが容易。ガスの中に雪渓が現われる、50mほどであるが先に崩壊したブロックが散乱しているのが見える。高巻くのは容易でないので、くぐる。散乱したブロックの先にさらに雪渓が続く、こちらはもう少し長く100mほどはありそうだ。先が見えないので恐る恐る入ってみるが、出口の明かりが見え安心した。後は何もなくゴーロを詰めるのかなと高度を上げていく。

途中の小滝でホールドの岩が抜けて棚橋さんが1mくらい落ちた(平均して岩がもろい)また灌木にひっかかっていた50cm大の岩が落下、矢野さん太股に当たるなどの大事には至らなかったがちょっとしたアクシデントがあり、なかなか一筋縄ではいかない沢でした。最後は15分ほどやぶを漕いで荒沢岳西側の稜線に出た。ピークには一番乗りである、久しぶりにのんびりしたピークであったが、各パーティの近づいていく様子を見ながら、雲間に臨む展望を楽しんだ。

各パーティ11時前に集中ができ、2日前にあっていたのに何故か懐かしい顔、顔。私にとって初めての「トマの集中」でしたが「集中」にかける心意気を感じたしです。良い天気の中、ゆっくり組で下山。



【行程】9/2 蛇子沢橋(7:10)～二俣広河原(12:10)～雪渓(13:00)～高巻き開始(14:00)  
～中俣大滝上(17:00) C1  
9/3 C1(5:45)～稜線(7:50-8:05)～荒沢岳(8:20/10:40)～下山

【地図】奥只見湖

<撮影>棚橋

